

日本人介護職員と外国人材双方の『信頼関係』の構築が 定着へと繋がる

2023年9月13日

株式会社サーフボード 本庄孝司

今回は、介護を主体とする、ある監理団体様からお聞きした話「日本人介護職員と外国人材双方の『信頼関係』の構築が定着へと繋がる」をご紹介します。

外国人技能実習生たちは、日本の介護施設に来てから、丁度1年経ち、介護施設での就労や日本での生活に満足しています。

その一方で、日本人介護職員のほうでは、外国人技能実習生のサポートで負担が増え、疲れがたまってきているとのことでした。具体的には、受入介護施設の施設長が、技能実習制度の良い面（建前のところ）を職場で強調しすぎるあまり、日本人介護職員たちは、1年間本音をずっと言いづらい雰囲気があったようです。

介護は人の命を扱う尊いお仕事のため、新人の日本人介護職員であれば、時には厳しく指導しなければいけない部分もあります。

しかし、外国人技能実習生に対しては、その本音をずっと言えない我慢している状況が1年続き、最近になって日本人介護職員たちの間で不平不満が噴出し始めているとのことでした。

そこで、この監理団体様では、外国人技能実習生だけではなく、日本人介護職員が抱えている不安や疑問の声も施設長に届けることも大切と考えるようになったということです。

私は、この話をお聴きして、大切だなと感じたのは以下の3つです。

- ① **相互理解の促進**：外国人技能実習生と日本人介護職員双方の理解を深めるコミュニティが必要。
- ② **定期的なフィードバックの導入**：日本人介護職員の意見を定期的に収集し、施設長に共有するためのアンケートが必要。
- ③ **双方向の安心環境の構築**：外国人技能実習生だけでなく、日本人介護職員の本音も聴く仕組みが必要。

これらのことを実現できた先には、日本人介護職員と外国人材双方の『信頼関係』が構築され、その職場への定着に繋がるのではないかと思います。

私は、日本で就労する外国人技能実習生にとって大切な人とは、時には「厳しいことを言ってくれる人」「愚痴を言っても受け止めてくれる人」だと思います。

そして、目指す方向性が同じ「仲間」がいて、ポジティブに考えることができ、自分のやりたいことを実現できる「環境」もあると素晴らしいと思います。（ここには、日本人職員のみならずも含まれます。）

『つなぐ』の目指すところとして、このような「人」「仲間」「環境」を大切にできる SNS コミュニティにしたいと願っております。

新企画のご案内ホームページはコチラ

<https://www.chaku2.jp/news/2607/>

以上